

# 富良野市の将来人口推計

---

まち・ひと・しごと創生本部ワークシートによる推計



まち・ひと・しごと創生本部ワークシートでは、社人研推計の他、独自の設定に基づく推計ができる。設定できるのは以下の3つ

## A. 出生率(子ども女性比) どのくらい子どもが生まれるか

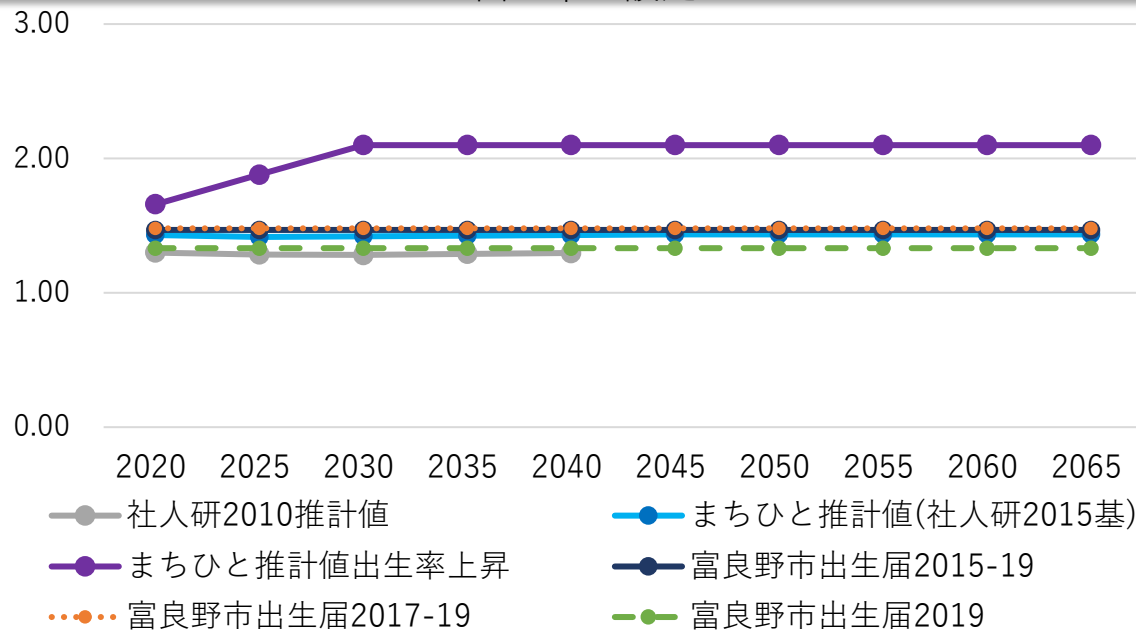
- ①社人研2010推計設定値
- ②社人研2015推計設定値
- ③富良野市出生届(2015-19)
- ④富良野市出生届(2017-19)
- ⑤富良野市出生届(2019)

## B. 社会移動率 どのくらい人の出入りがあるか

- ①社人研2010推計設定値
- ②社人研2015推計設定値
- ③富良野市転出入(2015-19)
- ④富良野市転出入(2017-19)
- ⑤富良野市転出入(2019)

## C. 移動数 移住施策等でどのくらい人が入るか

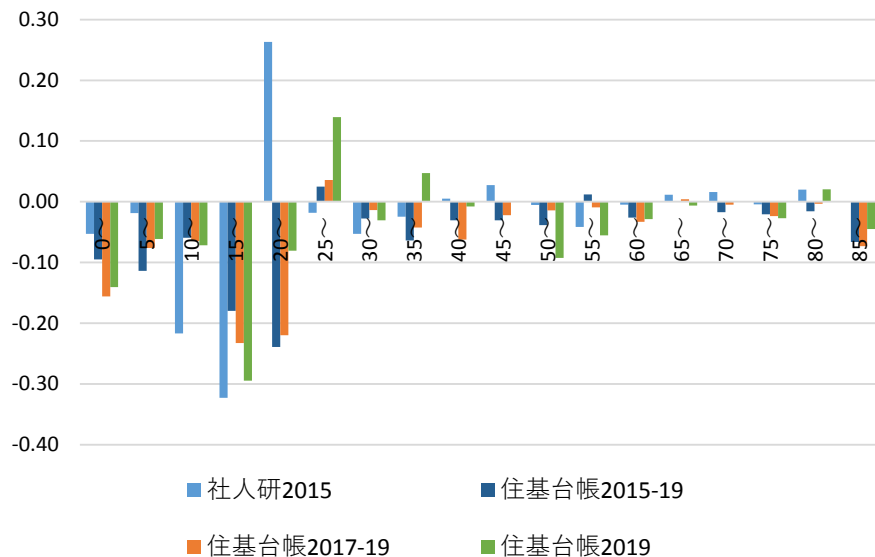
今回は設定しない



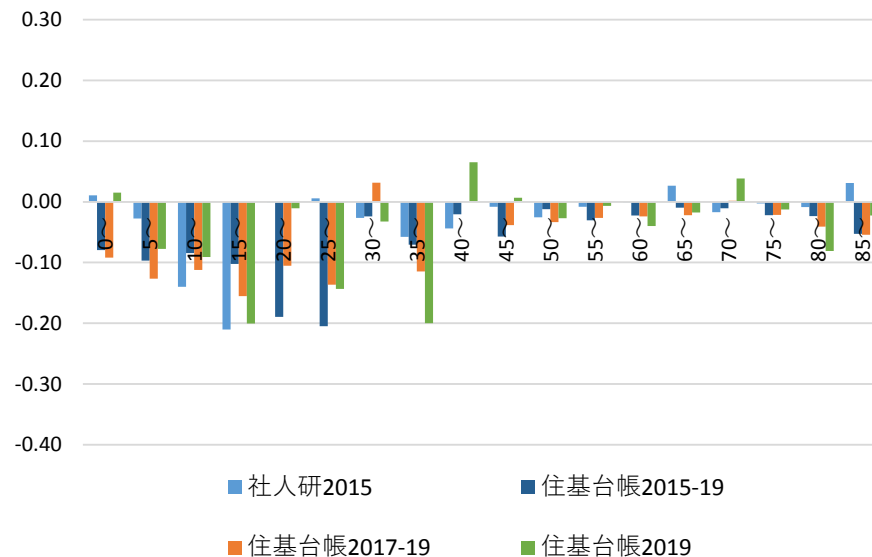
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
社人研2010推計値	1.30	1.29	1.28	1.29	1.30					
まちひと推計値(社人研2015基)	1.43	1.42	1.42	1.43	1.43	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44
まちひと推計値出生率上昇	1.66	1.88	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
富良野市出生届2015-19	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47
富良野市出生届2017-19	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48
富良野市出生届2019	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33

- ・社人研2010設定値より2015設定値の方が、出生率は高くなった富良野市出生届の平均も社人研2015設定値とほぼ同じ。
- ・ただし・・・出生率が上がっても、子育て世代女性の転出超過が多くなると出生数は小さくなる場合もある

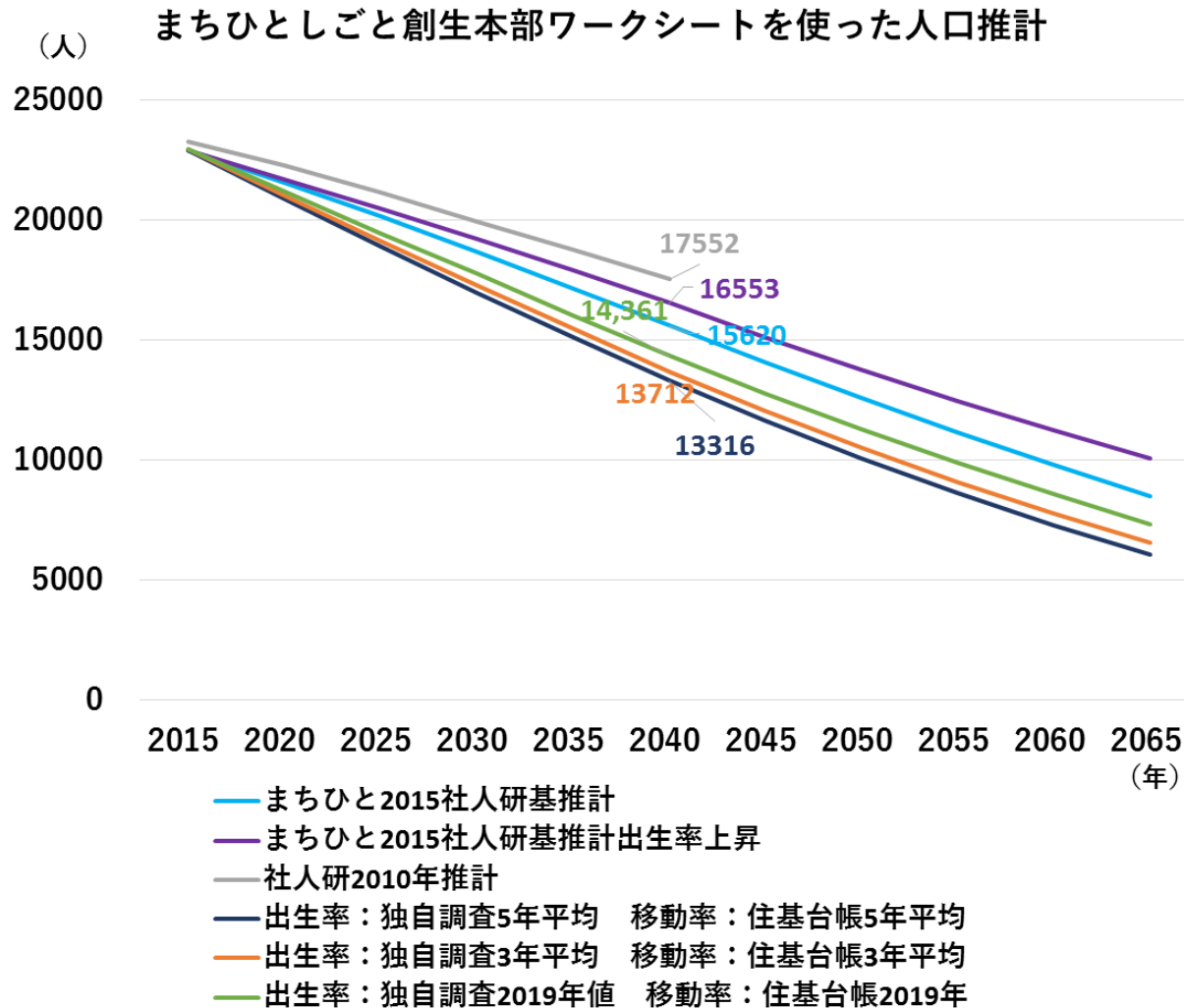
社人研2015推計社会移動率と住民基本台帳移動率 男



社人研2015推計社会移動率と住民基本台帳移動率 女



- ・富良野市住民基本台帳転出入2015-2019平均の方が20代の転出超過の傾向が強い
- ・富良野市住民基本台帳転出入2017-2019平均、2019では15歳以下の転出超過は社人研2015移動率と同じ傾向。
- ・転出転入の理由ともに仕事の都合(出入7割)、結婚のため(出入1割)、学校の都合(出6%入1%)、住宅の都合(出入6%)が多い。(転出入アンケート)
- ・転出超過になる要因としては支店・営業所等の撤退・人員削減や他都市への集中化、大学就学率の向上など



- ・出生率が向上できれば減少を緩和できる
- ・転出超過の影響は大きく、社会減だけでなく、子供を産む世帯が少なくなることにより、自然減にもつながる

## ●出生率の向上

- 効果はあるが、出生率を約40%アップすることが必要

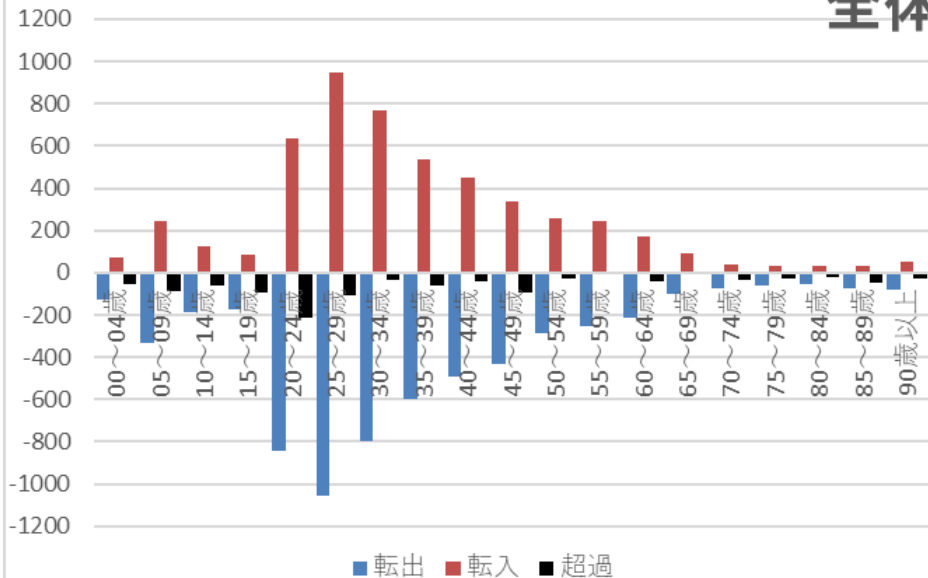
## ●社会移動における転出超過の抑制

- 出ていく人を食い止める
  - 進学就職による札幌圏・道外への転出
  - 世帯の一部が旭川圏へ転出
- 入ってくる人を増やす
  - リゾート地区を中心とした転入者の定着化
  - 農業・観光・他産業を合わせた就業・所得安定化

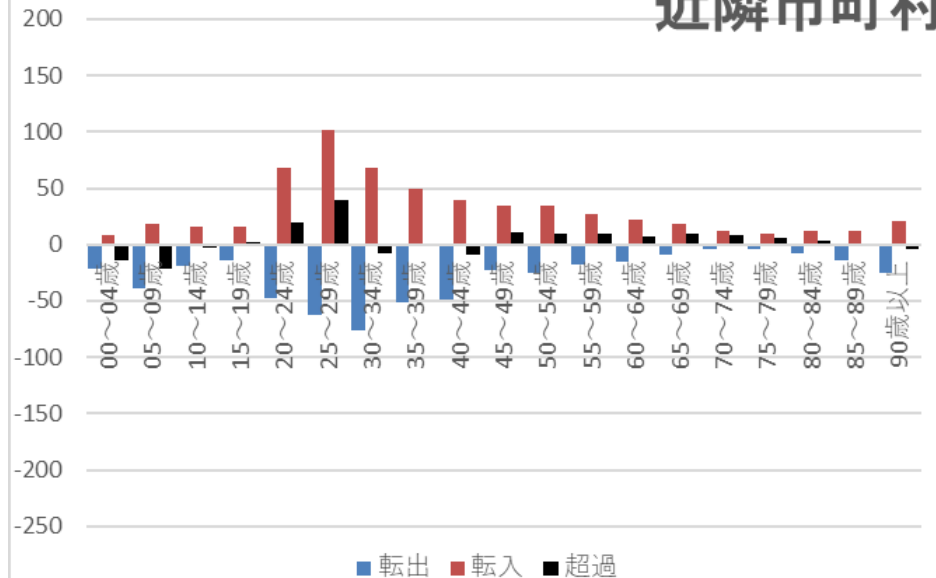
## ●人口減少下でも医療・福祉・買い物などの利便性確保

- ICTや自動運転などの活用

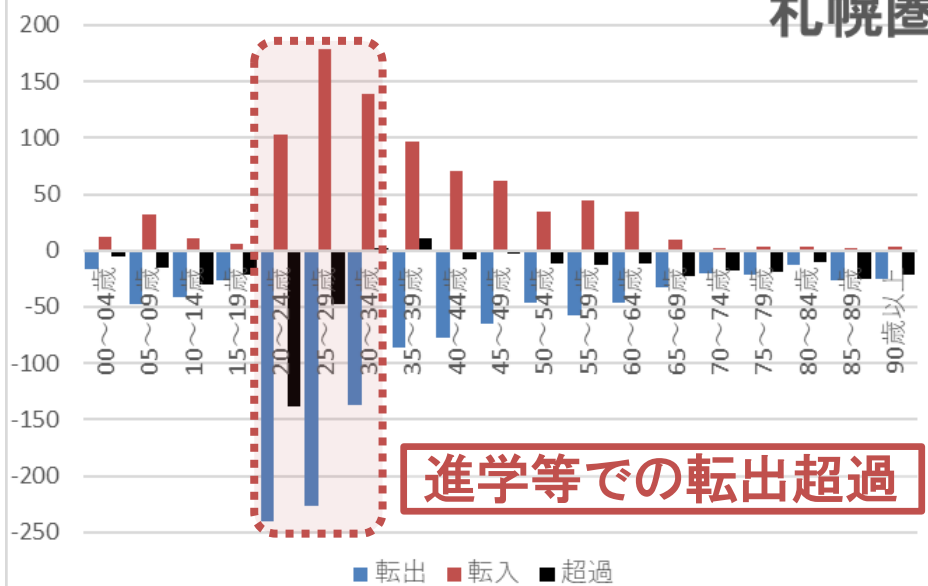
### 全体



### 近隣市町村



### 札幌圏



### 旭川圏

